



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会

2007 / 9 / 1(土)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 4

北海道のジュニアのレベルが上がってきているのは正しくミニバスに携わっておられる指導者の皆さんのお陰だと思います。いまや中学校の強豪チームや高校の強豪チームになるためにはミニバスの競技経験者がいなければほとんど不可能です。ミニバスの経験がない選手が追いつくためには相当の努力と才能がなければ絶望的な時代になってきました。今回は発足当時から北海道のミニバスに関わってこられた古賀委員にミニバス夏季交歓大会の報告を兼ねてミニバス誕生の経緯を語っていただきました。

「ミニバス夏季交歓大会報告」

厚別通ミニバス少年団 男子監督 古賀敏勝

第28回北海道ミニバスケットボール夏季交歓大会（主催～北海道ミニバスケットボール連盟・北海道バスケットボール協会、主管～函館地区ミニバスケットボール連盟・函館地区バスケットボール協会）は、7月27・28・29日の三日間、函館・北斗両市において、全道各地区の予選を勝ち抜いた男女各28チームが集い行われました。

私は、出発前に幸丸委員長より、「大会の結果を追うのではなく指導者としてよい仕事をされているコーチのゲーム運びやしつけ・作戦などに目を向けて感想や意見を述べて欲しい」との要請を受けました。帰札後の報告書づくりについては常に念頭にあったのですが、久方ぶりに標記弱小チームの監督（兼コーチ）として大会に参加したため自チームの試合に専念し、限られた会場、限られたゲームしか見ることが出来ず、資料不足に悩んでおります。

幸い、私は北海道にミニバスが誕生した当時から昨年度まで北海道ミニバス連盟の理事・役員として仲間に入れてもらいました。せっかくの機会ですのでこの夏季交歓大会の発展経過と果たしてきた役割、ミニバス界が抱える問題点等にも触れ、ミニバスを多くの方に理解していただきたいと思っております。

I、ミニバスの誕生

ミニバスケットボール（以下ミニバス）の生みの親は、昭和39年東京オリンピックにおける日本ナショナルチームの惨敗です。大学生や一般社会人を対象とした選手強化では世界と肩を並べることはできない。「若年から・底辺の拡大」がミニバス誕生の狙いでした。日本バスケットボール協会も手際よく文部省に働きかけ、同省では、早速、小学校5・6年体育科の教育課程にポートボールに代わってバスケットボールを採用しました。

北海道の各都市におけるミニバス誕生についての詳しい資料は持ちあわせておりませんが、道ミニ連結成以前の昭和47年10月7・8日に札幌市において9チームによるミニバス大会が開催された時のプログラムが残っております。

やがて旭川市・帯広市をはじめ、全道各地にミニバス少年団が誕生しはじめました。このような情報を察知した道バスケットボール協会にはミニバス連盟の結成ならびに

ミニバス大会の開催準備に惜しまぬ意を尽くしてくださったことに敬意を表する次第です。そして昭和51年1月6日～9日、「第1回北海道ミニバスケットボール選手権大会」が札幌中島スポーツセンターで開催されました。道協会の理事・役員の方々がたくさん応援に駆けつけてくださいました。イガグリ頭に女子も混じり一つのボールに群がる試合は初心者サッカーそのもの。リバウンドから敵味方九人をドリブルでぶっちぎってシュートを決めるスーパースター。股間を通すナイスパスに会場はわれんばかりの大拍手。奇異なスポーツを見るような目、しかし温かい目で見守ってくださった観客の姿が今も印象的です。

II、ミニバス夏季交歓大会の立ち上げと変遷

昭和51年の第1回北海道ミニバスケットボール選手権大会の開催は全道各地の選手・ミニバス指導者・保護者の方々に夢と希望と大きな刺激を与えることになりました。各地区からミニバス新チーム誕生の声が聞かれ、その数が急速に増加し始め、「バスケの命運はミニにあり」と叫ばれ始めました。時を同じく国体の北海道開催が決定しました(64国体)。道バ協は開催地として選手強化が急務となり、強化委員会は、ミニバス連盟にも北海道全域にミニバスの強化と普及活動の充実を求め、懇切丁寧な指導と協力をしてくださいました。このような経過の中で誕生したのが「ミニバス夏季交歓大会」です。

この大会も今年で28回を迎えました。北海道ミニバス連盟では、ミニバスの強化と普及のためにこの間、どのような考察や工夫を重ねてきたか、列挙してみます。

1. 選手の強化

- ① 試合は2日間、どのチームにも4試合を保証する。同一地区同士の対戦を避け、他地区チームとの交流を大切にする。
- ② 極端な差のある試合を避けるため各地区予選の順位を基に上位グループと下位グループに分け組み合わせを作成する。
- ③ 三菱電機チームのコーチと選手による「三菱電機サマークリニック」をこの大会時にお願ひし、大会開催地区少年団員・指導者の参加、大会参加選手に見学の機会を与える。

2. 指導者研修（代表者会議の中で）

※ ミニバス連盟では、大会時に行う「代表者会議」を指導者・保護者の研修の場と位置づけている。各種講演会や報告会も行っている。

- ① この大会の開催当初は、高校の指導者にバスケ部員を引率していただき実際に実技指導の実践ぶりを見せていただいた。
- ② 開催地区の指導実践者・医科学関係者（ケガ防止法・熱中症対策・体と食事など）・道バ協強化委員長などを講師に招き講演会を行う。

※ 保護者を対象とする時もある。

- ③ 前年度全国大会出場チームの指導者より全国大会の状況（ミニバスの進捗、発展状況・北海道との違い・自チームの戦いぶりなど）を報告してもらう。
- ④ 指導者中央講習会参加者からの報告を受ける。

※ ③・④の該当者が都合の悪いときは文書で

3 大会開催地の輪番制と開催地出場枠の拡大

- ① 開催地は、冬の選手権大会は札幌で行うので夏の交歓大会は札幌以外の主要都市で行う。（当初は、各地区連盟組織の確立度が不十分ということで札幌開催）
- ② 第4回大会以降は帯広市、苫小牧市、滝川市、旭川市において開催。その後も、北見市、函館市、釧路市などが自ら名乗りを上げて開催を要望。開催地のローテーションが確立する。（滝川市は都市規模縮小により）

- ③ 開催地区の出場枠を+4まで認め開催地区の普及発展を図る。

4・ユニークな試み

① ママさんオフィシャルの実施

ミニバス少年団員の親やその知り合いの方々にオフィシャルを手伝っていただくのではなく自分たちの力で全てやっていただくシステム。事前の指導には時間がかかるが大会ではほとんど問題なく支障なくこなしている。

彼女たちには、将来は中学や高校でも。それよりも何よりもいつまでもバスケットファンであって欲しい。

② 指導研修クリニックの実施（試合終了後）①とあわせ、これも道ミニバス審判委員会独自の試み。毎年少しずつ改善されているが本年度は下記の通り。

- 目的 子供たちの技術の習得と正しい理解のためにコーチと審判員のプレーの見方を合致させる。
- 方法 両チームの指導者、審判、進行役でつぎの内容を話し合う。
- 内容 ・審判員のゲーム後の反省
・プレーについて、審判員の判定と指導者の見方のズレ
・審判員から見た子供たちのプレーについての気になること

Ⅲ 今大会を見て感じたこと

- ① 大会運営や出場選手の強化に本大会を主管してくださった函館地区ミニ連と地区バス協会の一体感を強く感じた。心より敬意を表したい。
- ② かつては上位グループと下位グループには相当の実力差を感じていた。近年、その差がずいぶん縮まったような気がする。熱心な指導者同士の切磋琢磨の姿が目に見え、強いチームが多くなった証拠と思う。
- ③ 同様に、地区間の格差がなくなっている。このことについても、この夏季交歓大会のローテーション開催が、それぞれの開催地の強化と普及に大きな成果となって実を結んだように思う。
- ④ プレーの技術的なことについてはよく分からないが、片手でのシュート・パス・キャッチが多く見られた。それに伴い視野の広いプレーが展開され、選手が生き生きと見えた。
- ⑤ 指導者から選手への激しい「ゲキ」もあった。でも、端から見ていてさわやかだった。それよりも、指導者と選手のハイタッチ、アイコンタクト。ベンチとコートとの心を結ぶ喜びがあった。ミニバスの原点を見た。
- ⑥ どこの会場もたくさんの観客でうまったとか。大衆の前でのカッコいいプレー。どの子にとってもあこがれ！強化の原点はここに。

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会